

作新学院大学「とちぎ学(人材育成と地域振興)」講義資料

地域経済の発展を担う人材育成と教育戦略を考える
—「人生は青天井、一生青天井」「一生勉強、一生青春」—

2022年12月7日(水)

13:00~14:30

2101教室

開倫塾

塾長 林明夫

(公益社団法人栃木県経済同友会 会員)

【第 I 部】

＜公益社団法人 栃木県経済同友会「会報」原稿＞
新年の抱負

2022 年 12 月 5 日

外国出身の方も含め、地域人材育成を目指そう

開倫塾 塾長
代表取締役 社長
林 明夫

1. (1) 超少子化にコロナ禍が加わり、2021 年の出生数は 81 万名、2022 年の出生数は 80 万名を割ると報じられています。
(2) 3 年にも及ぶコロナ禍のため、結婚数と分娩予定者はさらに減少、10 年以内に出生数は 50 万名台に突入する可能性が出てきました。
(3) そうであるならば、働く人手不足は目に見えていますので、なすべきことは、ただ一つ。「外国出身の方も含め、地域人材を確保し、しっかり育成する」以外にありません。
2. (1) 小学校・中学校・高校・大学・専門学校・専修学校・大学院など、すべての「学校教育」だけでなく、「社会教育」「家庭教育」でも、さらには、「企業内教育」「学び直し」「リスキリング」に至るまで、すべての教育で、「地域人材育成を目指す」以外にありません。
(2) 外国出身の皆様にとり、魅力ある栃木県を県民一丸となって作り上げ、「地域を支える人材」として、末永くご活躍いただきましょう。
(3) 「栃木県で学び、働いた方は、外国出身の方も含め、全員、末永く栃木県に住み続け、栃木県でご活躍いただく」。そのような、栃木県を作り上げ、迫りくる、出生数 50 万名台の時代に備えようではありませんか。
3. (1) 開倫塾では、数年前に設立させていただいた「開倫塾日本語学校（足利市旭町）」で留学生の皆様への日本語教育。
(2) これに加え、2023 年度からは、県内各地の開倫塾の校舎で「開倫塾日本語教室」を開講。地域で働く外国出身者と、そのご家族のための日本語教育をスタートいたします。
(3) どうかよろしくお願いいたします。



Q 1 : これからの時代はどのような時代ですか。そこで求められる能力は何ですか

A : (1) 「知識基盤社会 Knowledge Based Society」です

→そこで求められる能力とは、「言語・シンボル・テキスト、知識・情報・技術などの『道具』を相互作用的に用いる能力」です

○具体的には

- ①技術などの「道具」を最新なものにし続ける
- ②自分の目的に「道具」を合わせる
- ③世界と活発に対話する



(2) 「グローバル化社会」

→そこで求められる能力とは、「多様な集団で交流する能力」です

○具体的には

- ①他人とよい関係をつくる
- ②協力する、チームで働く
- ③争いを処理し、解決する



○必要な理由

- ①多元的社会的多様性に対応する
- ②相手の立場に立って考える
- ③思いやりの重要性

(3) 「課題山積社会」
かだいさんせき

→そこで求められる能力とは、「自律的に活動する能力」です

○具体的には

- ①大きな展望の中で、高い志をもって活動する
- ②人生計画や個人的プロジェクトを設計し実行する
- ③自らの権利、利害、限界、ニーズを表明する



○必要な理由

- ①複雑な社会で自分のアイデンティティを実現し、目標を設定する
- ②権利を行使し、責任を取る
- ③自分の環境を理解して、その働きを知る



Q 2 : 仕事とは何ですか。人は何のために働くのですか

A : (1) ①すべての仕事には、お客様がいます

②仕事とは、お客様の困っていること、問題を解決し、お客様のお役に立つことです

③社会には、同じように困っているお客様がたくさんいます。ですから、仕事とは、お客様や社会の困っていることを解決し、お客様や社会のお役に立つことです

(2) 人は何のために働くのか

- ①お客様や社会のお役に立つため
- ②自己実現をするため
- ③生活できるだけの収入を得るため

(3)仕事の厳しさとは何か

- ①政治・経済・社会の状況がどんどん変わり続けることと、「お客様」の困っていることがどんどん変化し続けることです。どんどん激しく変化するお客様のニーズに合う製品やサービスを提供し続けることです



*「新聞」を読まないと、世の中のことはわかりません

- ②仕事の仕組みをたえず見直すこと、「学び直し」「リスキング」し続けることです
③競争相手がどんどん出現することです

○長引くインフレ・超少子高齢化に加え、感染爆発、気候変動、テクノロジーの変化、低頻度巨大災害、ロシアのウクライナ侵攻によるエネルギー不足、物価高騰など、「課題山積」です



Q 3 : 学生時代に身に付けておいたほうがよいことは何ですか

A : (1)一生役に立つ「効果の上がる学習方法」

○授業の後半で、効果の上がる学習方法「学習の3段階理論」の「作新学院大学版」を御紹介します。お楽しみに

(2)「読解力」—情報を正確、分析的に読み解く力—

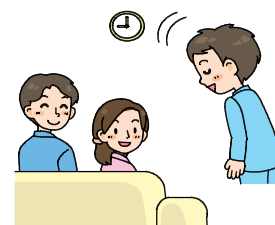
- ①「語彙力」…辞書の使い方
②「新聞」を読んで「自分で考える力」「批判的思考能力」を身に着ける
③「読書」…これぞという「古典」をじっくり何回も読み、「思慮深さ」「自省心」「省察力」を身に着ける。—古典の作者との「時空を超えた対話」を—

(3)「5S(ごえす)」—ローマ字で書くと「S」ではじまる5つの大切なこと—

- ①「整理」(seiri) …いらないものを処分する
②「清掃」(seisou) …きれいに掃除をする
③「整頓」(seiton) …ものは同じ場所に置く
④「清潔」(seiketsu) …①~③を保つ
⑤「躰」(shitsuke) …自分から進んで行う

○別の意味の「躰」も大事

- ①「美しい立居振舞い」…「服装第一」
②「美しい言葉遣い」……「敬語表現を含む言葉遣い」
③「元気なあいさつ」……「あいさつはこちらからする」



Q 4 : 栃木県のよさは何ですか

A : (1)一人あたり県民所得が、東京都、愛知県に続き全国第3位

- ①輸出主導型の製造業はじめ、製造業・ものづくりがさかん
②誠実で勤勉な県民性
③高度先端医療施設、高レベルのかかりつけ医院

(2)豊かな自然、温暖な気候

- ①温泉やゴルフ場はじめ、レクリエーション施設
- ②首都圏農業
- ③公園、自然体験施設

(3)実直な文化・伝統

- ①日本最古の学校「足利学校」
- ②世界遺産「日光二社一寺」
- ③「益子焼」「足利フラワーパーク」「ココファーム・ワイナリー」

郷土の

- ①二宮尊徳
- ②田中正造

Q5：最後に一言どうぞ

A：(1)「価値・意味・秩序」

- ①ものごとを行うときには、まずは、そのことの「価値(大切さ)」とは何かをよく考え、認識する
- ②次に、そのことの自分にとっての「意味」を自分の力で考え、「意味付け」を行う
- ③最後に、ではどうしようと、行うべきこと、行わないことを「自己決定」。自分でルールをつくり、「秩序」だった行動をする

(2)①中学校・高校・大学の勉強は一生役に立ちます

- ②ですから、それらの「教科書」・「辞書」・「年表」などの「教材」・「授業ノート」は、決して処分しないで一生保存。一生かけて何回も何十回も学び直すこと
- ③「採用試験」や「様々な試験」を受験するときには、中学校・高校・大学の教科書をまず勉強し直してから、受験勉強を行うと効果的です

(3)「スポーツの3つの宝」

- ①練習は不可能を可能にする
- ②フェアプレイ
- ③よき友



○今までにしたことのあるスポーツを大切に、一生かけてし続けてください」

○学力とは、「自分から進んで学ぶ力」「主体的に学ぶ力」

「学力を身に着ける意味」とは、

- ①「人生の成功」のため、「多様な選択肢のある人生を歩む」ため、「よく生きる」ため
- ②「正常に機能する社会の形成に貢献する」ため

御清聴を感謝いたします

御質問や御意見があれば、自由に御発言ください

【第Ⅱ部】

＜地域経済の発展は人材育成から＞

作新学院大学の学生である間に「効果の上がる学習方法」を少しずつでも身に着けよう

— 「人生青天井、一生青天井」「一生勉強、一生青春」 —

Q1：林さんは、「各教科の内容」や「定期試験」「模擬試験」「入学試験」「3大検定(英検・漢検・数学検定)」「国家試験」などのテスト対策だけでなく、「効果の上がる学習方法」特に「学習の3段階理論」をかなり熱心に奨励しているようですが、なぜですか

A：(1)開倫塾を創業以来、本年で44年になりますが、開倫塾で学ぶ「塾生」や「保護者」だけでなく、「地域社会」の多くの皆様から、毎日のように、「勉強・学習の仕方がよくわからず困っているので、『効果の上がる学習方法』を教えてください」という希望がよせられているためです



(2)そうであるならば、今までの経験を踏まえ、「効果の上がる学習方法」をまとめ、皆様にお示しすることが、お役に立つのではないかと考えました。そこで、「学習」を「理解」「定着」「応用」の「3段階」に分け、それぞれにふさわしい学習方法を具体的にお示ししたのが、この「学習の3段階理論」です。作者は塾長の林明夫です

(3)「学習の3段階理論」は、小学校・中学校・高校だけではなく、大学・大学院・専門学校などで学ぶときにも役立ちます。また、社会に出て、仕事や社会的活動をするうえでも、よい人生を送るうえでも、役立ちます。一生、役に立つ勉強方法です

(4)ですから、作新学院大学の学生の皆様は、作新学院大学の学生である間に、是非、「学習の3段階理論」を少しずつでも身に着け、大学での勉強だけではなく、社会に出てからもお役立てください。一生お役立てください

○塾長自身は、社会の皆様にもこの「学習の3段階理論」を含め「効果の上がる学習方法」をお伝えしたく、37年前から CRT ラジオ栃木放送「開倫塾の時間」(毎週土曜日午前 9:15 ~ 9:25 放送)を一人で担当、「社会人を含め、効果の上がる学習方法」を毎週お話しています。是非、お聴きください



Q 2 : それではお聞きします。「第1段階」の「理解」とは何ですか

A : (1)「理解」とは、今学んでいる内容について、「うんなるほどよくわかる」こと、「納得する」こと、「腑に落ちる」ことと、「定義」しています

(2)「理解」には、「予習」「授業中」「復習」「定着」「応用」など、様々な場面があります。ここでは、「授業中」と「復習」について御説明します

(3)大学での「授業」で、「理解」をするには、どうしたらよいでしょうか

①「遅刻」・「欠席」・「早退」をしないことが第一です

○先生が説明するとき、そこにいないと「理解」ができないからです

②「居眠り」「スマホ」「ゲーム」「よそ見」「おしゃべり」などをしていると、先生がいくら熱心に授業をしてくださっても、「理解」はできません

○「おしゃべり(私語)」は、「他人の理解の妨げ」にもなりますので、避けましょう

③授業中の態度として一番よいのは、「手を机の上に置き、先生の目や口元をよく見て、一語一句、聞き逃さないように、真剣に授業に臨む」ことです

○「必要なことはすべてノートにメモし続ける」ことです

④「よくわからない」「よく理解できない」ことがあったら、先生の「許可」

を得て、質問すること(時間がなければ、授業後に質問すること)です

(4)「復習」での「理解」はどうしたらよいでしょうか

①授業が終わったら、「必ず、その日学んだことを、もう一度勉強し直す」ことが大切です

②「教科書・テキスト・ノート」をもう一度ゆっくり読み直し、どのような意味・内容か考えること

*ことばの意味がわからなかったら、「辞書」や「参考書」、各教科の「用語集」で調べ、「ノート」や「カード」、「意味調べノート」に書き写し、すべて覚えること

③「計算」や「問題」はもう一度ノートに解き直してみる。なぜそのような解答になるか考えること

*なぜそのような解答になるかがよくわからなかったら、教科別の参考書で調べる。似たような計算や問題を参考にすること

*それでもわからなければ、遠慮しないで先生に質問してくださいね



Q 3 : 「第2段階」の「定着」とは何ですか

A : (1)「定着」とは、一度「うんなるほど」とよく「理解」した内容を正確に「身に着ける」とと、「定義」しています(「学習の3段階理論」では、「定着」と関連づけ、「身に付ける」ではなく、「身に着ける」と漢字で表記します。御了承ください)

(2)せっかく「理解」しても、「定着」させないと、身に着けないとすぐに忘れてしまいます

(3)ではどのように身に着けたらよいのでしょうか。「学習の3段階理論」では、「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」の3つの「練習」を「定着のための3大練習」、3つの大切な練習としておすすめしています

Q 4 : 「音読練習」とは何ですか。

- A : (1) 「教科書」や「テキスト」、「一度解いた問題」や「解答・解説」を「スラスラとよく読めるようになるまで、声を出して読む練習」です
- (2) 何回も、何十回も、読む練習をして、できれば大切なところは何も見ないで言えるまでにする「暗唱」にも挑戦してください
- (3) 英語や国語はもちろん、理科・社会・数学だけでなく、大学や大学院で学ぶすべての教科書をスミからスミまで「音読練習」を繰り返し、スラスラとよく読めるようにする。大切なところはすべて「覚える」「暗唱する」ことです
- (4) 「スミからスミまで覚える、暗唱すること」が、「定期試験」で 100 点満点を取る、「検定試験」「国家試験」「採用試験」に合格する秘訣です



Q 5 : 「書き取り練習」とは何ですか

- A : (1) 「音読練習」をしてスラスラとよく読めるようになった内容を、書き順も含め正確に書けるようになるまで、「書く練習」をすることです
- (2) 大切な語句や表現、文章や公式・原理などは、何も見ないで書けるまでにする「暗記」が、「定期試験」だけでなく、「すべての試験」で満点や合格点を取る秘訣です
- (3) 「理解」しただけでは覚えることができません。同じように、書けるようにもなりません。「音読練習」「書き取り練習」をして、初めて「知識」が身に付き、「理解」した内容を「暗唱」「暗記」することができます
- * テストで得点でき、社会で仕事や社会的活動をする際にも活用できます



Q 6 : 「計算・問題練習」とは何ですか

- A : (1) なぜそのような解答になるのかがよく「理解」できた「計算」や「問題」は、見た瞬間に条件反射で正解が出るまで、何回も、何回も「計算・問題練習」を繰り返すことです
- (2) 「計算・問題練習」を繰り返し、条件反射で正解が出る「計算」や「問題」が増えれば増えるほど、試験問題の中で、新しい問題や思考力を試す問題をじっくり考えるために用いることができる時間が増えます。高得点が取れます
- (3) やさしい、定型的な計算や問題は、条件反射で正解を導き、考えさせる計算や問題は、じっくり時間をかけて解くことが大切と考えます



「学習の3段階理論」では、この「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」を「定着のための3大練習」と呼んでいます

○「定着のための3大練習」は、不可能を可能にする



Q 7 : 「第 3 段階」の「応用」とは何ですか

A : (1) 「応用」とは、「定期試験で 100 点満点を取る」こと、「検定試験、国家試験、採用試験で合格点を取る」ことと、「定義」しています

(2) 「定期試験で全教科 100 点満点を取る」ためには、どうしたらよいでしょうか。

① 毎回の「授業」と「復習」でしっかり「理解」したうえで、「定着のための 3 大練習」を確実にいき、試験範囲の「教科書」「問題集」「教材」「授業ノート」を「スミからスミまで覚える」ことです

② 全教科 100 点満点を取るためには、「定期試験」は 1 か月前から準備を行うことが大切です

(2) 「検定試験」や「国家試験」などで合格点を取るためには、どうしたらよいでしょうか

① 試験の 1 年前(難関な試験は 2 年前)に、「受ける試験」を決定することが第一

② 「受ける試験」を決定したら、「受験生としての自覚」をもって「受験勉強」に専念すること

③ 「受験勉強」には、「効果の上がる学習方法」を身に着けることと、「学習時間の確保」が欠かせません



Q 8 : 「効果の上がる学習方法」とは何ですか

A : (1) 「試験に出題される全教科」を、^{まんべん}満遍なく「理解」「定着」「応用」することです

① 「全く勉強していない教科」、「試験範囲が終了していない教科」を、集中的に学習すること

② 「学習はしていても、十分な得点ができない分野」、つまり「不得意分野」は、「よくわからないところまで^{さかのぼ}遡って」「できるだけやさしい教材」で、学習すること

③ 試験前日まで、「出題教科」や「出題範囲」の内容を、スミからスミまですべて「理解」し、「定着」させ、「応用力」を身に着けることが何より大切です

○ だからこそ、1 日も早く「受ける試験」を決め、「受験生としての自覚をもち、受験勉強をスタート」させることが大事です

(2) 過去に出題された問題「^{かこもん}過去問」の数年分、できれば 10 年分を、「試験時間内」に、「自分の力」で「ノート」に解く練習をすること (1 週間に 1 年分)

① 「過去問」を解き終えたら、「自己採点」

② 「間違えた問題」は、なぜ間違えたかを分析(これを「^{ごとうぶんせき}誤答分析」といいます)

③ 「誤答分析」の結果、基礎力不足なら、よくわからないところまで遡って、「教科書」や「やさしい教材」を用いてもう一度勉強し直す

④ 「ケアレスミス」なら、「定着のための 3 大練習」を徹底的に行うことです

○ 「間違いノート」や「まとめノート」を作成することも「超おすすめ」です

○ 「間違えた問題」は、「できるようになるまで、何回でもやり直す」こと!!

○ 「同じ間違いは 2 回繰り返さない!!」



Q 9 : 最後に一言どうぞ

A : (1)いくら各教科の勉強をしても、「読解力」が不足しては合格点は取れません

(2)自分の意見、自分の考えを問われる問題が増えていますので、「自分で考える力」「自分で思い、考えたことを表現する力」が不足していると、合格点は取れません

(3)そこで、「辞書・新聞・読書」に親しみ、「学習習慣」とすることが大切です



①まずは、「辞書」を活用して、自分が知っている・身に着けている「語句」の数(語彙数)を増やすことが第一。調べたことは、「意味調べノート」に書き写し、すべて覚える

②次に、新聞を毎日 30 分以上ていねいに読み、世の中の出来事を知り、「自分で考える力」「批判的思考能力」を育成することが第二。興味のある記事は、切り抜いて「スクラップブック」をつくる



③更に、読書に親しみ、本は毎日 30 分～1 時間以上読んで「作者との時空を超えた対話」を行い、「思慮深さ」「自省心」「省察力」を身に着けることが大切です。気に入った文章は、「書き抜き読書ノート」に書き抜く

○「辞書」・「新聞」・「読書」に親しみ「読解力」を身に着けることは、すべての教科の「授業」「教科書」「教材」や、「定期試験」「検定試験」「国家試験」「採用試験」などの問題本文・設問などを「理解」することに直結します

○読解力なくして「学力向上」「成績向上」なし、
「偏差値アップ」「受ける試験合格」なし!!



御清聴ありがとうございました。心から感謝いたします
御質問・御意見・コメントなど自由に御発言ください



【第三部】

日本工業倶楽部 会報原稿

2022年11月30日

私の好きなことば

ここ二十年来、年に何回ずつか、所属する経済同友会(東京)と栃木県経済同友会、群馬経済同友会の活動として、中学校や高校、大学や大学院で「働くことの意義や喜び」、「これからの社会で求められる能力とは何か」などというテーマで、経営者として「出張授業」を行っています。

毎回、授業の最初に、「私の好きなことば」を自己紹介代わりにお話をいただいています。例えば、先日、2022年11月27日(土)に國學院大學久我山中学高等学校の中学2年生のグループ8名にご紹介したのは、次の16のことばです。

1. 「人生は青天井、一生青天井」

2. 「一生勉強、一生青春」(相田みつを)

○一人ひとりの人間の潜在可能性は青天井の無限大でそれは一生続くが、一つだけ条件があります。それは「一生勉強し続ける」ということです。自分の潜在可能性を引き伸ばすために、一生勉強し続けてくださいね。

3. 「教育ある人とは勉強し続ける人」(ドラッカー)

○私は、このドラッカーのことばが大好きです。私は、このドラッカーのことばに「一生」を付け加え、「教育ある人とは、一生勉強し続ける人」と考えます。

4. 「持続する志」(大江健三郎)

○ノーベル賞作家の大江健三郎に「持続する志」というエッセー集があります。「志」は「持続」し続けてこそ価値を増すものと考えます。



5. 「歴史における個人の役割」(プレハーノフ)

○ロシアの革命家、プレハーノフのことばですが、革命だけでなく、すべての国や企業、組織、コミュニティ、家族にも歴史があります。その各々の歴史の中で一人ひとりのメンバーの果たす役割は極めて大きいと考えます。

6. 「独立自尊」(福沢諭吉)

○志を高く持ち続け、独立独歩で学んでこそ、自分自身を尊ぶことができると考えます。



7. 「スポーツの三つの宝」(小泉信三)

- (1) 「練習は不可能を可能にする」
- (2) 「フェアプレイ」(いやしいプレイはしない)
- (3) 「よき友」



○慶應義塾の塾長であった小泉先生が、テニス部の監督としてお示しになった、「スポーツの三つの宝」は胸にしみます。

8. 「注意一秒、ケガ一生」(宮沢浩一)

○慶應義塾大学法学部のゼミで刑事政策を担当なさった宮沢先生のおことばです。宮沢先生は犯罪学もご担当。被害者学の日本への紹介者でもあります。

9. 「離見の見(りけんのけん)」(世阿弥)

○舞台上で踊っている自分の全体の姿を、離れた観客席から見る。自分自身を客観的に見ることの大切さを教えてくれることばです。

10. 「本当の月を見たことがあるのか、本当の自分を見たことがあるのか」(京都一燈園、石川洋)

11. 「会った人は皆友達」(石川洋)

12. 「目には遠いが、心は近い」(インドのことわざ)

13. 「ブルドッグ魂(食いついたら離すな)」(岡田忠治)

○中学校のクラス担任の先生のことばです。

14. 「練習で泣いて試合で笑え」(椎名弘)

○中学校の柔道部の監督の先生のことばです。

15. 「一所懸命」(足利高校マラソン大会の合言葉)

○「一生懸命」という表現しか知らなかったので、「一つの所で命を懸けるくらい熱心にものごとに取り組む」というこの表現の意味を知ったときは衝撃でした。



皆様も、中学校や高校・大学で先生から教えていただいたことや、社会に出てから様々なところで学んだことの中で、心に響いた「ことば」をメモし、一生の宝物として大切にしてください。

以上のようなお話を授業の最初にします。



最後に「一言」で、

(1) 「価値・意味・秩序」という松永澄夫先生のことばをご紹介

①ものごとを行うときは、まずはそのことの「価値(大切さ)」とは何かをよく考え認識する。

②次に、そのことの自分にとっての「意味」を自分の力で考え、「意味付け」を行う。

③最後に、ではどうしようと、行うべきこと、行わないことを「自己決定」。自分で「ルール」をつくり「秩序」だった行動をする。

(2)①「学校のよさ、地域のよさ、東京のよさ、日本のよさ、近くにいる一人ひとりのよさを考える」(よさの発見)

②そのうえで、自分の「よさ」を探し出す。そして、よいところはどんどん伸ばす。

③「やりたいこと」「できること」「やるべきこと」は何かを考え、将来に備えよう。

④高い志をもち、「自律的に行動する力」が最も大切。

(3) 「健康第一、心の健康、身体の健康を大切に」

このように締めくくります。



開倫塾

塾長 林明夫